

顧客の立場から
ベストプラクティスを追求する保険仲立人

株式会社デカルトアンダーライティング

17

Ⅱ現状と将来への期待Ⅰ

気候変動・自然災害リスクに対するパラメトリック保険を提供

デカルトアンダーライティングはフランス、パリに本社を置く、気候変動・自然災害リスクに関するパラメトリック保険を専門に取り扱うMGA（マネージング ジェネラル エージェント）です。MGAは、一般的に保険会社にアンダーライティングサービスを提供し、サービスマスターを受領します。弊社は、欧州を始めた日本国外では、主にイタリアの大手保険会社、ゼネリ保険会社とのパートナーシップの下、引受けを行っており、セネリ社を加えた複数の保険会社による再保険・ネールを組成しています。そのキャパシティは、一契約当たり、7千万USD、日本円で100億円程度、案件によつては、最大2億USD、300億円程度と

なります。日本国内では、当社のパラメトリック保険は日本国内の元受保険会社を通じて、再保険として提供することを想定しています。なお、日本法人である株式会社デカルトアンダーライティングは、再保険契約の仲介に携わるため、保険仲立人として登録を行っています。

日照量、風速など、気候が大きく変動した場合に、その発生、変動の程度により生じる損害額を想定して支払限度額を約定し、実際にその自然災害、変動が起こった場合に、事前に定めた条件に応じて保険金を支払います。そのため、短期間で保険金を支払うことができ、また、これまでの保険では対応が難しかった物的損害を伴わない利益損害（構外利益や、交通の遮断による売上げの減少等）にも対応することが可能です。

それでは、現状、パラメトリック保険を検討したい企業は、国内保険会社による認可取得を待たなければいけないかという点、実はそうでもありません。保険業法では、保険契約者が自ら当局へ申請し、許可を受けた場合、海外の保険会社と直接保険契約を締結することを認めています。この海外直接付保については、昨年の金融審議会「損害保険業等に関する制度等ワーキング・グループ」で議論されましたので、ご興味を持たれていらっしゃる方も多いと思います。ワーキング・グループでは、保険仲立人の保険契約への介在により、保険契約者の利便性の向上や、保険の選択肢が増えることで保険契約者のより適切な保険調達が可能となることを期待され

のではあるものの、リスクコントロールによりリスクをゼロにすることはできないため、保険などを活用したリスクファイナンスが強く求められます。一方で、国内保険市場では、地震保険を手配することが容易ではなく、また、近年では風水害についても国内保険会社の引受けが制限されてきております。このような状況では、国内企業は自然災害リスクに対するキャパシティを海外保険マーケットに依存せざるを得なくなっており、海外保険市場にキャパシティを得るためのメリットは、前述の南海トラフ地震等のようなとてもない巨大災害時に見舞われた場合、海外から保険金が自動的に流入する仕組みを構築することができるところです。日本国内が巨大災害で混乱している最中に、海外からキャパシティが流入することの重要性は、ご理解いただけるのではないかと思います。

しかしながら、残念ながら日本国内では、パラメトリック保険の導入が進んでいません。特に



スタッフの皆さん

定額は、それぞれ約95兆円、最大、21兆円と日本年間GDPの16%、36%に相当します。当然のことながら、BOPなどのリスクコントロール施策は非常に重要なも

日本国内では再保険契約の仲介に携わる

弊社がパリ本社では、150人を超えるリスクモデラー、データサイエンティスト、ソフトウェアエンジニア等の自然災害・気候変動リスクの専門家チームが、全世界の様々な気候変動、自然災害リスクに対するパラメトリック保険の構築のために働いており、弊社のパラメトリック保険は、広く世界各地の企業、自治体に採用いただいております。

日本においては、残念ながら、残念なこと日本国内では、パラメトリック保険の導入が進んでいません。特に